

施策の柱2 チャレンジの意欲を形にする自立支援

障がいのある子どもの可能性を大切に育みながら、教育、福祉、労働等の関係機関が連携した支援を行うことにより、将来の自立と社会参加に向けた子どもや保護者の夢や希望の実現を目指します。

施策の内容

(1) 早期からの自立支援の推進

自立に向けた基礎的な力を高めるための幼稚部から高等部までの計画的なキャリア教育を充実することにより、将来につながる自立支援を推進します。

(2) 多様化する生徒のニーズに対応した自立支援の充実

特別支援学校において、医療的ケアや発達障がい等を併せ有するなど、多様化する生徒のニーズに対応した自立支援の在り方について検討し、教育内容や指導方法等の充実を図ります。

(3) 文化・芸術・スポーツを通じた障がいのある子どもの生きがいくくり（新規）

日常生活におけるQOL（生活の質）の向上や新たな才能の開花につながる文化・芸術・スポーツ活動等の取組を推進するとともに、生涯を通して文化やスポーツに親しみ、自らの人生をより良くしていく態度を育成する取組を推進します。

(4) 地域や企業、福祉機関等との連携の充実（新規）

子どもの将来の社会的・職業的自立に向けて、学校と地域や企業、福祉、労働機関等との連携による支援の充実を図ります。また、子どもの自立と社会参加に向けた啓発活動を推進します。

展開する主な取組

○ 子どもの夢や希望を育てる早期からのキャリア教育の充実

特別支援学校において、基礎的な生活スキルやICT機器を活用したスケジュール管理や外部とのコミュニケーションを図るための自立活動の指導の充実を図りながら、幼稚部または小学部から高等部までの計画的なキャリア教育の一層の充実を図り、その成果を小・中学校等での指導に生かせるよう啓発に努めます。

○ 「技能検定」の拡充による職業スキルを高める指導の充実

本県が知的障がいの生徒を対象として実施している「チャレンジ検定」について、対象障がい種を広げたり、小・中学部まで年齢層を下げた評価方法を開発したり、早期から一貫した職業スキルを高める指導の充実を図ります。

- 「職業コース制」や「職業学科」の検討による多様化する生徒への対応
 多様化する生徒への対応を図るため、「職業コース制」や「職業学科」に関する教育課程の編成について、特別支援学校を研究推進校として指定し、その成果や課題の活用に努めます。
 また、重複障がいのある児童生徒等の自立支援の観点から、QOLの向上を目指した「ライフスキルチェック表」の研究に努めます。
- 文化・芸術・スポーツを通じた障がいのある子どもの生きがづくり（新規）
 障がいのある子ども自らの人生をより良くしていく態度を育成するため、主体的に学んだり、文化やスポーツに親しんだりする活動を関係団体等と連携し、卒業後も学習意欲の喚起や技能の向上を図る生涯学習の機会の充実に努めます。
 また、多くの子どもと一緒に取り組めるスポーツや芸術活動等の推進に努めます。
- 地域と連携した自立支援体制の充実（新規）
 特別支援学校に配置している自立支援を推進する担当者と進路担当者が連携して、職場開拓等を行うとともに、定着支援や離職防止、就労支援事例のデータベース化に努めるなど、自立支援体制の充実に努めます。
 また、特別支援学校がコミュニティ・スクール^{※1}（学校運営協議会制度）や地域学校共同活動を活用して、地域や新たな企業等との連携を図り、子どもの可能性の開発や指導・支援の工夫につなげるなど支援の研究に努めます。

※1 コミュニティ・スクール

学校と保護者や地域の方が共に知恵を出し合い、学校経営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律に基づいた仕組み

【展開イメージ】学校と地域コミュニティで支えるチャレンジの意欲

